

第32期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第2回 平成28年8月22日(月) 実施		
会場	ほんぼーと中央図書館3階 ビーンズホール	傍聴人	0人
会議内容	1. 開会 2. 協議事項 (1) 第32期 新潟市社会教育委員会議 建議テーマについて (2) 第31期建議「新潟市の生涯学習のあるべき姿」の推進状況について (3) 平成28年度会議日程及び活動スケジュールについて (4) 第58回全国社会教育研究大会・第47回関東甲信越静社会教育研究大会への参加について 3. 報告事項 (1) 社会教育委員等研修会(6/27)参加報告 4. 閉会		
出席者	【社会教育委員】 小川 崇 神林 むつみ 雲尾 周 齊川 豊 田村 祐一 鶴巻 清美 横坂 幸子 渡邊 喜夫 【事務局】 長浜教育次長 三保中央図書館長 佐々木地域教育推進課長 五十嵐中央公民館長 小林中央図書館企画管理課長 松田中央図書館サービス課長 井関生涯学習センター所長 生涯学習センター(鈴木次長補佐、井浦係長、野坂主査、井部主事) 中央公民館(玉木主事)		
会議録			
1. 開会 (事務局) ただいまより、第21期新潟市社会教育委員会議第2回を開催いたします。 本日は、伊井昭夫委員、南雲保子委員、本間莉恵委員から欠席の連絡をいただいておりますが、伊井委員からは、欠席されるにあたりご意見をいただいております。 なお、新潟市社会教育委員の会議運営規則第9条に定める開催に必要な人数を満たしていることをご報告いたします。 また、本日、傍聴の希望はありませんでした。当会議につきましては、会議録作成の必要がございますので、録音と写真撮影をさせていただきますことをご了承ください。 それでは、開催にあたりまして、教育次長よりごあいさつを申し上げます。 (長浜教育次長) 皆様、改めましてこんにちは。 今日は、台風のせいなのでしょう。蒸し暑い中、お忙しいところをお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。 この台風の影響がこれから夜に出てくるのかどうか、新潟も含めて、どこにも災害といったことがないように祈りながら会議を進められたら良いと思います。 今回は第32期の第2回目ということで、第1回目におきましては、第32期のテーマをどうするかということで、事務局試案としていくつかご提案したものを踏まえながら、皆様方からご意見をちょうだいしました。いろいろなご意見をいただく中で、議長の雲尾委員からある程度の方向性をまとめていただきまして、今日は決めることができると思っております。また、その後、皆様方からもいろいろとご報告をいただいている中で、少し考えを深めていただいた部分がありますので、そういったことも今日のご披露いただきながら、第32期としてどういう方向に進んでいくかということを決めていただければと思います。			

第32期新潟市社会教育委員会議

皆様方からのご意見を拝聴しております。今後の新潟市の社会教育、生涯学習の指南に富むお話が非常に多いと感じておりますので、今日も忌憚のないところをお伺いしながら、このテーマということだけではなく、新潟市の社会教育、生涯学習をどう進めていくかということのヒントにもさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 協議事項

(1) 第32期 新潟市社会教育委員会議 建議テーマについて

(雲尾議長)

それでは、協議事項ということで、まず第32期新潟市社会教育委員会議建議テーマについてです。前回、5月31日にご議論いただきました内容が資料1にまとめてあります。内容をご確認いただき、改めて協議した上で今期の建議テーマを決定したいと思いますので、こちらをご覧いただいた上で、何かお気づきの点やご意見等がありましたらお願いいたします。

ご欠席の伊井委員からは、8月19日付けで別紙によりご意見をいただいておりますので、こういう意見の方もいらっしゃるということで、これを参考にさせていただきながらご発言いただければと思います。

現在のところ、1番の建議テーマにありますように『学びの循環』による人づくり、事務局案で言いますと4番を重点にしていますが、内容的には、当然1番の「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」のものを中心に扱っていくということで、ほかのテーマのものはやらないということではなく、この大きな4番を中心としたテーマの中に1番をはじめとして内容を加えていくという形で案が出ているというのが現在の仮の案ということでございます。

(小川委員)

前回、事務局から、資料1の下のほうでしょうか。6までのテーマの案が出まして、その中でいろいろな議論がありましたけれども、暫定的に『学びの循環』による人づくりということで1番と4番を合わせた形の中で、では具体的には今回少しずつ意見を出していきましようというお話だったと思います。その中で西川中学校に視察に行きましようという、おそらくそういう流れだと思っておりますけれども。そうすると、テーマ案として具体的に何をして、どのようにまとめていきましようかということを考えるために、おそらくいくつかのところを視察なり見学なりさせていただいて進めていけばいいのかなと思っております。今後、どういうところに視察に行こうとか、行きたいとか、そういうものがあると、話が具体的に進むのかなと思っております。

(生涯学習センター所長)

事務局としましては、この後の説明で、学びの循環、学・社・民の融合の取組みを各担当課から説明させていただきます。その次に、主に学びの循環の観点なのですが、新潟市の取組みとしてこのようなことをやっていて、西川中学校もその一環なのですが、こういう方の話を聞いたりとか、こういう現場を見ていただきたいというものを案として提示させていただきたいと思っております。今は、とりあえず副議長がおっしゃったような大きなくりの部分だけをここで了解をいただければ、あとはそれを少しずつ、現地を見ながら絞っていただくような形で進めてはいかかなと考えておるところです。

(横坂委員)

3番の「多様な家庭環境に考慮した家庭教育」についてです。今、「子ども食堂」が全国で広がりを見せています。こどもが学ぶこと以前に、学べない環境や貧困家庭の問題が、このことを通して映し出されています。その実態が知りたいと思っております。

(渡邊委員)

二、三か月くらい前に、南区で在宅医療連携についての勉強会をやっていました。各家庭を見てくると、南区だけではないかもしれませんが、やはり貧困家庭が少しあって、やはりその中で子どもが学業で問題が生じつつあるということで、この前、テレビでも子どもの6分の1がそういう傾向になっているというような発表がされていました。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

パソコンが買えなくてパソコンが使えない子どもがいるということを、あるテレビ番組で放送していました。学校ではパソコン教育をやるのだけれども、そのときにしかやっていないから、自宅にパソコンがある子どもは、それでインターネットを使ったり自由にやられているのだけれども、肩身の狭い状況に置かれているというものでした。中学生だったと思いますけれども、本人自身が発表していたというようなことで、貧困の問題は社会問題としてこれから大きなウエイトを占めていくのではないかなとは思っておりました。

ついでで恐縮なのですが、学びの循環による人づくりについて、あるいは地域づくり、学校づくり、人づくりということで、これは一体化して学ぶということになると、単なる個人参加だけで終わるのか、地域に反映させるのか、あるいは学校づくりまでもっていくのかというようなことを考えると、少し引っ掛かるのは、そこに郷土愛があるのかなのかということが大きく関係してくるように思います。そうすると、郷土を愛するための教育といえますか、そこまですべきかどうか。例えば、自分たちの地域にはこういう課題がありますよとか、時々コミュニティ協議会のワークショップなどいろいろな意味で地域課題を挙げて、それからその問題を解決していきましょうというようなものがよくあるのです。問題の根源をつかまないとすべてにおいてこれはやりましたよというような進捗を、確かにそれも成果の一つなのですが、本当に根付いているのかなど。自分の中に本当にしっかりと広がって連携していけるのかなどということが、少し気になっているのです。

というのは、一昨日、私どもの地区でお祭りをやったのです。小さい子どもから大人まで一緒になって、屋台とかお神輿とかいろいろあるものですから集まって、今年は暑いせいかお年寄りの方が外出を控えられて来られなかったということもありました祭りの実行委員が、私もその一人だったのですけれども、毎年自治会の役員が代わるたびに代わるのです。そうすると、その後、継続してボランティアとしてやってくれる人がいるかと言うと、なかなか出てこない。そういうことをやっていくことで、地域への愛着は当然ながら育っていくと思うのです。持続的な面でどうやったら続けてやっていただけるのかなということが根本的な問題で、人づくり、教育というのは、そう簡単にできるものではありませんし、そういうところを解決しないと、いざ防災と言ったときなどに、やはり力を発揮できるのかどうかということが非常に難しい問題です。

この前、私どもの大通地区では防災訓練をやりました。大通地域全体です。私のところは、去年は100人近く参加したのですが、今回は40人くらいなのです。参加しない人にどうしてかと聞きますと、マンネリ化しているとか、参加する意義がないみたいなことを言われます。新興住宅街で30年近くも経つ地域や、そうでない地域など、住む人の意識によって違うのですが、地域を一つの目標に引っ張っていくということはやはりけっこう大変だなと実感しました。これは、やはり人づくりを目指す一番大事な部分なので、根気よくやらざるを得ないなと思っています。だから、

(雲尾議長)

ありがとうございます。そのほかの委員の方々は、ご意見いかがでしょうか。

賛成にせよ、反対にせよ、あるいはこのテーマで、自分の関係だとこのようなことをしたいとかということも含めてご意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

例えば、学校に来ていただいている外部の方々というのは、この学びの循環による人づくりのテーマに合っていそうな方々ですか。では、齊川委員、お願いします。

(齊川委員)

今、渡邊委員がおっしゃったとおり、人づくりというのは、確かにすごく難しいところだと思うのです。スパン的に長くしなければいけない。学校に来ているボランティアの方がどうというよりも、自分のお子さんが学校に在学していたときにPTA等がかかわって、それが、子どもさんが卒業してからも地域の子どものために学校にかかわってくださっている。そういう考えの方は、とてもうまくいっていると思います。でも、子どもが卒業すると同時に私も卒業よ、という人たちは、なかなか関わってくれない。そういう人たちの意識を変えて、多くの人たちが生涯学習という立場からPTAとかそういうものにぜひ参加して自分を高めていって、それぞれが学校もしくは地域が高ま

第32期新潟市社会教育委員会議

るところにつながっていくというようにもっていけるようになれば最高だと思うのです。

その中で、西川地区の事例はきっといい事例だと思うのです。このようにしていくといいですよという紹介も、それはすごくいいと思うのですけれども、なかなか頑張っているもできていないのですというところにも視点を当てて、なぜできないのだろうという辺りを考えていくということも、人づくりに対する一つの指摘になるのかなとも思います。

だから、あまり堅苦しくなく、いい事例や悪い事例をきちんと見ていって、新潟市としてどうやっていったらいいのだろうということを考えていければよいと思います。今、渡邊委員がおっしゃった大通地区も、昔は新興住宅地でも活発だったのだけれども、段々下火になった。でも、大通地区で白根の凧合戦も、確か子どもが行くようになりましたよね。昔は行っていなかったのです。ところが、それによってとても子どもの意識が、旧白根市のということで地域の祭りということで高まっていったとか、そういうものが人づくりに発展していくのかなといういい例だと思うのです。そういうあたりを、いろいろな事例を知ることによって我々もそれについてコメントしていく。そして、いいものばかりではなくて、なかなかそういうふうにかかない地区に対して、このようにするといいいのかなというあたりのことが述べられればいいのかなと思ったりもします。

(渡邊委員)

西川中学校の視察については、中学生に対し認知症の講座をやられるということで、非常に画期的で大変素晴らしい取組だと私は思います。私も認知症講座を受けたので、認知症というものは大体分かりますし、老人クラブの会長をやっていると、やはり認知症が増えているという現実も分かります。こういう生活環境、こういう家庭環境で認知症が増えるのだなということも、やはり実感的に肌で感じてくるのです。

私の立場からすると、今老人クラブでは、予防のほうに力を入れています。去年の祭りでは、お年寄りが健康チェックを大勢受けられたのです。今年は、新潟市は最高気温が35.9度になっていましたので日中の暑さは大変だったのですが、お年寄りが来なかった分、若い人が康というものに注目されて、健康チェックを受けたということで、祭りと健康チェックを絡めた行事を行うことで、若い人にも健康に興味を持ってもらう大事な機会になっています。

そういう意味で、認知症の講座を早めにやるということは非常にありがたいことだし、いいことだと思っております。

(雲尾議長)

ありがとうございました。ほかの委員の方々、いかがでしょうか。

最初にありました案について、その中でこんな手段ができるのではないかというご発言だったかと思しますので、第32期社会教育委員会議の建議テーマとしては、『『学びの循環』による人づくり』で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。

(2) 第31期建議「新潟市の生涯学習のあるべき姿」の推進状況について

(雲尾議長)

事務局より、説明をお願いしたいと思います。

(生涯学習センター所長)

第31期の社会教育委員のみなさんの建議として、平成28年度から平成31年度までの新潟市の生涯学習のあるべき姿を描いていただきました。目標としては「ともに学び、育ち、創る」～ゆたかな新潟を目指して～ということで、二つの基本方針、四つの基本施策に基づいて、ご意見を頂戴いたしました。ご意見の中で事業の進捗状況については、社会教育委員の場できちんと報告して、協議結果にしたがって、改善を図ることが望ましいというようなことで頂戴しております。そのことを踏まえて、報告させていただきたいと思います。また、今期の建議テーマを決めていただいたなかで、今後の方向性を考えていただくうえで、参考になればという意味合いからも、事業の進捗状

第3 2期新潟市社会教育委員会議

況について説明させていただきます。事前送付させていただきましたので、恐縮ですが、新規拡充部分と「学びの循環」に関する部分を中心に説明させていただきたいと思います。

1 ページ目でございますけれども、まず1 番の学習支援、そのうちの1 の学校と連携した家庭教育支援の推進、そこの②の子育て学習出前講座でございます。先ほど貧困という話もありましたが、社会教育から貧困へのアプローチはなかなか難しい中で、この事業につきましては、小学校、中学校の新入生の説明会の場を使わせていただいて、家庭教育についての講座を実施するという内容でございます。特徴といたしましては、こういう講座を開きますと、おいで下さいという方々がなかなか集まりにくいという状況がありますので、多くの方が集まる場を活用させていただいて、そこで家庭教育の重要性を説明させていただいております。中学校のほうにつきましては、実施率が3 割から4 割くらいという状況でございました。中学校になりますとなかなか学校の説明時間等が時間として必要になってくるということで、時間を割くことが難しいという状況でした。そこで、2 8年度からは、学年を問わず、多くの方が集まる場で説明させていただくように、そういった形で拡充させていただきました。今後この結果がどうなるか、どのような形に見えてくるかということが非常に期待しているところでございます。

2 番目の高齢者の学習支援の推進というところでございますけれども、ここの平成2 7年度実績⑤のにいがた市民大学についてですが、4 コース5 講座ということで、非常に高度な内容の講義をやっております。これも狙うところは「学びの循環」でございまして、最終的には、そこで学んだ成果を町づくりとか地域づくりに生かしていただきたいということで考えております。ちなみに、11 団体の方々が活動中でございますけれども、例えば、まちなか再生研究会ということで、街歩きガイドをやっていたりと、そういった方たちが市民大学を受講された方たちの中にいらっしゃいます。続いて3 番の情報社会に対応する学びの場の設定の⑥パソコン初心者の研修会でございます。生涯学習センターはボランティアの方々に支えられている施設でございまして、パソコン講座をやっておりますが、ボランティアの方々にやっていただきます。それから地域と学ぶパソコン教室につきましては、専門学校、具体的に申しあげますと新潟高度情報専門学校の学生さんが講師としてやってくださっているという事業でございます。これもまさに学んだ成果を次に生かしていくというふうな「学びの循環」を実際実行している事業でございます。

次に、2 ページをご覧くださいと思います。学習支援の1 3 番の多様な実践例の集約と研修会や広報などでの情報発信のところですが、フェイスブックによる情報の発信が新規で記載しておりますが、社会教育関係は情報発信力が弱いということで、公民館、生涯学習センターも一緒にやっておりますけれども、公民館のほうは既にフェイスブックを立ち上げて、事業情報を発信しております。こういったかたちでSNS を使いながら、新たなPR に努めていきたいと考えております。

次が1 5 番目、学習相談体制の充実ということでございます。これも実はボランティアさんなんですけれども、生涯学習相談窓口「ひだまり」の設置ということでございます。これはメンバーが2 5 ~2 6 人くらいいらっしゃるのですが、週3 日間半日なんですけれども、ボランティアの方に生涯学習センターに来ていただいて、学習相談をしていただいております。まさに学びの循環の接着役と申しますか、こういう風な学習主体の、こういう人材がいるというような、紹介をするというようなかたちでございます。過去においては、生涯学習センターだけでなく、坂井輪、白根に出前ということでボランティアさんに行っていたいて、実施しております。

つづきまして、3 ページ活動支援の1 番、「学習の成果を生かす機会や事業の提供」でございますけれども、この⑤「ボランティアバンク」というところでございます。「ボランティアバンク」につきましては、登録者数は記載のとおりでございまして、主に福祉施設や学校のクラブサポートなどが多い内容になっております。囲碁とか太極拳とか手芸とか、そういったジャンルでボランティアの方々に活躍していただいているということでございます。これも課題といたしましては、ボランティアに登録していただけるのは非常にありがたいのですけれども、活動場所の創出、いわゆる機会ですね。活動機会、そういったところをたくさん創出するなり、紹介していかなければならないと、一つの課題となっております。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

次が⑥「保育環境の整備」ですけれども、先ほどふれました「にいがた市民大学」では、いろいろ工夫をしております。今年度につきましては、「子どもの世界」という講座を開きますので、お子さんを預かるということも、初めての取り組みとして行いました。

次が具体的施策の3番、「ボランティアの養成、活動のきっかけづくり」ということでございますが、この⑧「ボランティアと共催事業」のところでございます。ここに記載のボランティアさんは生涯学習センターで活躍してくださっているボランティアさんですが、このボランティアさんとの共催ということで、そば打ちの体験事業ですとか、民謡講座などを行っております。生涯学習センターにつきましては、以上でございます。

(地域教育推進課長)

「学びの循環による人づくり」という方向を踏まえながら、簡潔にお話しさせていただきます。特に基本施策の学習支援と活動支援に限ってお話をさせていただきます。特に地域の方、市民の方が、学ぶ場として学校を会場にどんな活動を提供しているか、という面が一つ。それからその人たちがどのようにして活動してもらっているか、という点に絞ってお話していきます。

1 ページ目の学習支援2「高齢者の学習支援の推進」のところの、①のところパートナーシップ事業「地域の学びの拠点づくり」という文言があります。地域と学校パートナーシップ事業には4つの柱がありますが、そのうちの 하나가学校が地域の学びの拠点となるような、そういった事業を展開しております。たとえばどんなことかという、学校を会場にして講演会などを企画するというものがあります。どんな講演会かといいますと、例えば防災に関する、薬物濫用に関する、インターネットの活用に関する、このような講演会を開いていただいている学校があります。また、講習会とか教室として、例えばヨガ教室とか、料理教室とか、英語、踊り、手話などそういう講座的なものを開いてもらっているところもございます。

また、ボランティア活動として、読み聞かせの活動に対する講習を行ってもらったり、プランターづくり・花植えの講座とか、お茶会、地域の茶の間づくりで、そこで情報交換すると、こういう場を提供しております。昨年度の報告ですと、全部で169校で事業が行われているのですが、そのうちの148校のなかで、そのような取り組みがあったというふうに報告を受けております。課題として昨年度は、運営主任さん、それから学校担当者の方から来ていただいて、学びの拠点づくりについての講習、情報交換を行いました。なかなか学びの拠点づくりと大上段に構えると、何か講演会をしなければならないのか、〇〇教室を作らなければならないのかということに目が行きがちになるのですけれども、実はそればかりではなくて、活動をとおしながら、学習者の視点からしてこういうことが学びのきっかけになったんだよと。こういうことを意図しているものであれば、もう学びの拠点づくりにしましょうと。例えば、プランターへの花植えについても、これについては子どもたちのお手伝いをするんですが、その事前に花植えをしながら、花の植え方を学んでもらう。これだけで学びの拠点になりますし、子ども達にどうやって接して、どんなふうに教えていけばいいのかな、これを学ぶことだけで学びの拠点になるんです。ということで、どの学校でもできるんですよ、こういう活動をしてくださいと、という研修を実施しております。ですので今年度につきましては、かなり多様な学びの拠点づくりが期待できるのではないかなと考えております。

学びの拠点づくりについては、その他にも2ページ学習支援の12番「自己実現を目指した、個人の要望に基づく学習機会（趣味・教養に関する講座・学習会）の充実」というところがありますが、その①のところにも記載のとおり、学びの拠点づくりを実施してまいります。また、前後しますが1ページの7番「自然体験・地域活動を含む様々な体験機会の提供」というものがあります。②番「ふれあいスクールにおける体験型イベントの実施」というものです。昨日の新潟日報の中で、西区の坂井東小学校でふれあいスクールの中で「防災キャンプ」を実施したという記事が載っていたかと思います。約100名近い参加者があって、子ども達が学校に泊まって、防災について学ぶ、いざというときにどんな活動ができるかということを体験しながら学ぶというものがございました。その他にも、泊まらないまでも「あそ防災」、遊びながら防災について学ぶイベントだとか、地域の伝統芸能と一緒に学ぶ機会だとか、餅つき大会とか新聞紙を使って遊ぶとか、このような体験

第3 2期新潟市社会教育委員会議

型のイベントを行っております。こういうところにも地域の方々に来ていただいて、いろいろ学びを提供していくという取り組みを実施しております。それから同じ7番の①のところに「パートナーシップ事業における地域貢献活動の実施」というものがあります。例えばどんな貢献活動があるかといいますと、清掃活動とか、施設の訪問だとか、合同防災とか、地域行事への参加、このようなものが行われています。そのなかで自然体験や地域活動における体験活動が提供できるというふうに考えております。またこのような機会がありますよ、という情報提供の機会として2ページの13番では、パートナーシップ通信を発行して情報提供を図っております。そして16番「学・社・民の融合による教育」に関する市民意識の啓発ということで、「ウェルカム参観日」というものを実施しております。地域の方々とどんなふうに連携して学習課題をしていますよということを、今年度は45の学校で合わせて51回「ウェルカム参観日」を企画しております。そうすることによって、たくさんの情報が得られるのではないかと、考えております。以上が学習支援の具体的なテーマになります。

その他については、3ページにあります活動支援です。このように学習機会を提供し学習の場を作りながら、今度はそれを生かすために学校にに来ていただくということで、例えば2番「地域の住民が学校でボランティア活動をする機会の充実」ということで、パートナーシップ事業のなかで地域の方から学校の教育活動を支援していただく場ということでございます。また5番「児童、生徒、学生が学んだことを地域へ還元（発表、活動など）する活動の推進」です。特に中学生くらいになると、防災もそうですが、福祉もそうですが、自分たちでできることをということで地域のほうに出向いて行って、活動を行っている、そういう学校もだんだん増えてきているという現状があります。またふれあいスクール事業につきましても、地域のたくさんの方から子どもたちの見守りとか、一緒になって活動していただくということをお願いしておりますので、そのようにして学習の場を提供したり、活動の場を提供して、学校の中で活動していただいております。以上です。

(中央公民館長)

それでは、公民館に関する事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目、2「高齢者の学習支援の推進」の③高齢者対象事業としまして、公民館は全世代に学習機会を提供していきたいということと、新潟市が抱えているいろいろな諸問題に対して、考えていこうと、そういう人材を育成していきたいということで、「セカンドライフ農業体験」というものを昨年度から重点事業ということで実施しております。今年も4館で実施しております。先般、テレビや新聞でも報道されましたが、60歳を超えた世代のいわゆる「セカンドライフ」というものに対して、新潟市は農業を大きな重点としておりますので、関心を持っていただいて、さらに、そこから学びの循環という面で、昨年度は、サークル化ができなかったんですが、今年度につきましては、中央区でやったものにつきましては、サークル化が進んでいるといった実態でございます。

続きまして、地域課題の解決ということで、5の「地域の人材（コーディネーター・リーダー）の発掘と養成」ということで、これも公民館の大きな施策のひとつですが、全8区11の公民館でコミュニティビジネスとか、街歩きとか、商店街活性化ですとか、あるいは若者支援ですとか、そういったものに取り組んでおります。これもその講座が終わった後、その地域をもとにいろいろな活動を展開していきたいということで、サークルがいくつかできております。

次が7番の「自然体験・地域活動を含む様々な体験機会の提供」ということですが、④の「子ども体験、ボランティア活動」ということでございますが、これも従来公民館のほうで学校や家庭ではできないような体験をしていこうと、例えば、この夏ですと、新潟漆器の教室、それから親子キャンプ、それから囲碁や将棋、そういうふうなものを地域の方々から講師になっていただいて教えてもらうということでございます。先ほど貧困というお話がありましたけれども、ひとり親家庭ですと、なかなか子どもさんと保護者が一緒に参加するということができにくいといったところがございますので、これは管内の校長先生からも指導を受けているのですが、そこをクリアするような取組をしたいと思っております。また、申込が8時30分からとなっているんですけども、お母

第3 2期新潟市社会教育委員会議

さんなりお父さんが働いているとその時間に連絡ができないというふうなことがありますので、そこを改善してほしいという意見がありまして、そこで私共としましては、メールですとかあるいは事前に申し込みをいただいた場合には受付をするというようなことを今しております。

2ページ目です。13「多様な実践例の集約と研修会や広報などでの情報発信」ということで、どうしても公民館の認知度が低いということや、広報力が低いといわれているなかで、今年度からフェイスブックを始めました。現在、中央、中地区、新津地区の3館で実施しております。残る基幹公民館と地区公民館についてはできるだけ年度内でフェイスブックを立ち上げていきたいというふうに考えております。

続きまして3ページ、活動支援の1「学習の成果を生かす機会や事業の提供」の①「講座受講生が、次年度の講座での講師やスタッフ、企画委員として活動できる場を提供」ということで、公民館は学びの循環の場でございますので、その講義が終わった後も次年度その講義・講座を支援してもらおう、あるいは、人集めをしてもらう、実施のお手伝いをしてもらうなどといったことをお声掛けして、協力をしてもらっているという状況でございます。それから6の「交流会や情報発信など活動を継続するための仕組みづくり」ということで①の子育てサークル同士の交流会を開催し、情報交換実施ということで、公民館のほうで、現在全ての館で、いわゆる子育て支援家庭教育学級を進めておりますが、特に0歳児を対象にしましたゆりかご学級につきまして、これまで西蒲区では実施していなかったのですが、今年度から西川地区公民館でも始めまして、受講が終わったお母さん方に、その後サークル化を図って、先ほどSNSの話が出ましたけれども、みなさんがフェイスブックですとか、そういうようなもので仲間づくりを進めることが容易な環境になってきておりますので、それらを使ってできるだけ仲間づくりやそれ以降の活動についてもつなげていってほしいということで、公民館でも場所の提供や情報の提供ということで支援しております。続きまして4ページ目です。環境支援ということで、2の地域住民や児童を対象に学校などを会場に公民館事業を124講座開催しております。これは年々講座数が増えておりまして、私どもが学校を会場に地域の方々を講師あるいは協力という形で参加していただいて、子ども達を対象に事業をしております。例えば、クラシックのミニ音楽会ですとか、紙芝居をやるとかそういうふうなことを学校のほうでやっております。一方で、市民向けのパソコン講座を学校の教室を使い、地域の方々に子どもたちが教えているというような取組もやっております。最後に、6の「公民館改革宣言の実施を可能にする公民館職員の育成」ということで、公民館職員は、現在25館で142人の職員がおりますけれども、職員一人一人が地域の課題に気づき、地域の方々と一緒になって取り組んでいきたいということで、今年も研修を実施していきたいというふうに考えております。以上で公民館の説明を終わります。

(中央図書館企画管理課長)

中央図書館企画管理課です。図書館につきましては、主にサービス課が事業を実施しており、企画管理課としては4ページ目の環境支援の3番「電子図書館機能の充実」ということで、27年度には図書館の運営それから資料の貸出し、サービスの実施のための情報システムを新しいものに切り替えました。また、郷土資料のデジタルアーカイブ化ということで、新規に始めましたけれども、これは新津図書館にあります古い地図17点を公開しております。また子供向けの図書館運営ということで、本体の図書館ホームページの中でキッズページを設けております。28年度につきましては、②のデジタルアーカイブ化をさらに進めるということで、新津図書館ならびに中央図書館にあります資料もデジタル化をして、直接図書館に来られない、あるいはお貸しすることが難しいような資料もデジタルにして見ていただくことを進め、点数として27年度の倍くらいの総数にして、外に出せるように、資料の選定とアップを進めていきたいと考えております。企画管理課からは以上です。

(中央図書館サービス課長)

つづきまして、サービス課より説明させていただきます。主にボランティア活動にかかわる部分についてご説明いたします。まず学習支援の4「多文化理解の学習の場の提供と工夫」の①「おは

第3 2期新潟市社会教育委員会議

なしのじかん・えいご」,これはボランティアのネイティブの方の協力を得て、英語の読み聞かせを行っております。隔月で年6回行いました。次に2ページの11「図書館資料を活用した地域支援事業(課題解決)実施」のところで、①「地域連携講座」です。こちらは東地区公民館と連携しまして講座を開催いたしました。それから12番の③「読書会」こちらは中央、坂井輪をはじめ6館で開催いたしました。④の「図書館友の会講演会」、こちら今日4時からおいでいただいておりますが、中央図書館友の会の講演会を、このときは川柳の真壁芳郎先生をお招きして、一般市民の方を対象に開催し90名の参加がありました。それから次に、3ページの活動支援のところです。1「学習の成果を生かす機会や事業の提供」というところの②です。「読み聞かせボランティアを他機関へ紹介」。こちらは学校や幼稚園から読み聞かせの要請があり、中央図書館で調整をしてボランティアグループにお願いし行っていました。それから②が対面朗読のサービスです。こちらは年間で54回実施いたしました。対面朗読のグループが二つありまして、活動しています。プライベート録音図書も年間で13点作成いただきました。次に3番の「ボランティアの養成、活動のきっかけづくり」の②「ブックスタートボランティア養成講座」と「ステップアップ講座」です。ブックスタートは以前よりボランティアさんの協力を得て行っておりますが、現在180人くらいのボランティアさんの協力をいただいております。その他、配架書架整理ボランティアが全館で延べ2,788名。次に「保存箱作成ボランティア」です。中央図書館にある古い資料の保存のために、一冊一冊丁寧に保存箱を作成していただくのですが、保存箱の作成ボランティアが8名。⑥「本の修理補修ボランティア」は、年間で237名の方に活動していただきました。また、こちらの表には抜けているのですが、⑧のボランティアと共催事業というところで、図書館でもボランティアとの共催事業を多数実施いたしました。次に4の「各分野でのボランティアニーズの発掘」では、②「図書館ホームページでボランティア活動を紹介」したり③保育園・幼稚園へ読み聞かせボランティアのリストを作成して送付するなど、ボランティア活動の掘り起こしを図りました。次に6番「交流会や情報発信など活動を継続するための仕組みづくり」というところです。②の「読み聞かせ等ボランティア交流会」、こちらは昨年2回開催しまして、合計89名の参加がありました。それから秋葉区では、ボランティアの方々の交流会を開催しております。それぞれにボランティア同士がお互いに情報交換をして、質の向上を図ろうという取り組みです。それから、④の「豊栄・中央・白根図書館友の会3館交流会」、図書館友の会が3つありますが、毎年交代で交流会を開催しております。昨年は豊栄で行いまして、20名の参加がありました。一つ飛びまして、⑥「図書館友の会による会報誌発行」、こちらは豊栄図書館と中央中央図書館で、それぞれ年1回と年10回発行しております。一般のボランティアに関わる部分は以上になります。

(雲尾議長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、お気づきの点や質問がありましたらお願いいたします。

地域教育推進課にお伺いしたいのですが、1ページの学習支援の3番の①です。生徒、PTA、青少年育成協議会を対象にしたSNSに関する講習会に講師派遣。昨年度は2か所、今年度は1か所というのは、これは事業を縮小したという意味なのでしょうか。それとも、2か所というのは、当初計画から増えて2か所になったとか、どういったことでしょうか。

(地域教育推進課長)

現在、依頼を受けているところが1か所であるということでございます。

(雲尾議長)

何か所という予定は立てていないという趣旨ですか。

(地域教育推進課長)

はい。

(雲尾議長)

依頼さえあれば、何か所でも派遣するということですか。

(地域教育推進課長)

伺う予定でいます。

(雲尾議長)

分かりました。

(齊川委員)

生涯学習センターと公民館にお聞きしたいのですが、先ほど、パソコンに関しても専門学生などが講師になって入ってくると。とてもいいことだと思うのですが、新潟県、新潟市も含めてなかなか大学の進学率がうんぬんという話も出ていますけれども、専門学校の進学率がすごく高い。市内にこれだけの専門学校があるという特徴があります。その専門学生の人たちを使わない手はないと思うのです。ですから、これから先、生涯学習センターにしても公民館にしても、そういう学生をいかに社会教育の中に引き入れていくかあたりの構想とか、計画というものはお持ちでしょうか。

(生涯学習センター所長)

具体的な計画はないのですが、やはりそれが、今後の生涯学習センターの方向性の一つとして十分考えていける話ではないかと、館内で協議していたところです。そもそもこれはお願いして始まった経過があるので、新潟高度情報専門学校の学生によるパソコン講座は年2回なのですが、拡大する余地はないのかとか、もしくはパソコンに限らずほかのジャンルで協力を得られる道はないのかということは今後考えなければだめだなということで、まさに館内でも話しておりました。生徒が他人に教えることによって、自分も教えるためには勉強しなければだめなので、専門学校としては、それも学びの循環だという認識です。そして、自身が学んだ成果を他人に伝えることが学びの深化につながるという意味からも、学校ともその辺の話を聞きながら、成果も踏まえつつ進めていけるものであればより拡充していきたいと思います。

(中央公民館長)

公民館なのですが、実際に小学校、中学校との連携はけっこうあるのですが、高校、専門学校、大学は弱いというのが現状です。その中で、今、西地区公民館では周辺に新潟大学がありますので、新潟大学教育学部の方々と一緒にやるとか、国際情報大学や医療系大学と一緒に事業に取り組んでおります。

専門学校については、それは私どもも課題だなと思っておりまして、今、専門学校生がたくさんおりますので、今年度くらいからアプローチをしていきたいと考えています。また、ユースセミナーという若い人を対象にした講座があり、これはあくまでも受講という意味合いなのですが、そのような方々に対しても受講者募集の広報等を専門学校にお願いしていくというようなことはやっています。

専門学校や大学に対し、これからどのようなお付き合いをしていけばいいのかということを検討している最中です。

(齊川委員)

ありがとうございました。

(横坂委員)

保育専門学校も新潟市にはたくさんあって、職場に生徒が実習に来るので、読み聞かせをしてもらうと、学校で指導を受けているかという指導を受けていないというのです。それで私たちが指導するのですが、短期間の実習ではなくて、もっと公民館とかかわることによってボランティアの方から習ったり、現場に出たりしながらいくといいのかなと、今ご意見を聞きながら思いました。やりたいという学生は、多分いると思います。

(鶴巻委員)

学習支援の5番です。地域の人材、コーディネーター・リーダーの発掘と養成ということで、①番、平成27年度の実績として、全区で11講座を開催、延べ参加者211人ということですが、この211人の方はコミュニティ・コーディネーター育成講座を終えると何か資格がもらえるのでしょうかということが一つと、その方たちに学びの循環として地域にどのような活躍の場があるのかというこ

第3期新潟市社会教育委員会議

とを教えていただきたいです。

(中央公民館長)

コミュニティ・コーディネーターについては、8区の基幹公民館を中心にして、今11館でやっています。内容についてもさまざまなものがありまして、例えば、北区の豊栄地区公民館ではコミュニティビジネスに取り組みたいということで、これは今2年、今年度で3年度目になります。

(鶴巻委員)

具体的にはどのようなことをするのですか。

(中央公民館長)

例えばカフェをやりたいと。コミュニティ・カフェといいますが、寄りあいですね。使わなくなった施設を使って、そこで商工会や区役所の商工関係の方と一緒にカフェをやったりということが今進んでいます。これはすぐにはできないので、今3年目で、来年の4年目くらいにようやくお店がオープンできるのかなというような、実際に事業をやっているところがあります。

このほか、坂井輪地区公民館でやっているのは、近くにある寺尾中央公園を活性化できないかということで、これは単年度事業です。その年度ごとにテーマを変えていって、今年度は寺尾中央公園を活性化できないかと取り組んでいます。来年度は、ここの商店街を活性化できないかというような形でやっているところもあります。

そのような形でやっておりますが、先ほど資格というお話がありましたけれども、当初はコミュニティ・コーディネーターという資格というか、名刺みたいなものを持って地域に出掛けて行ってコミュニティをつくっていくというようなことの支援をしていくようなことがあったのですが、現在のところはそういうものではなくて、自分たちで自分たちの地域の魅力みたいなものを活性化させたり、発見したり、何か利用したり、という目的が大きくなっています。

もう一つは、自治協議会の役員とかPTAとか、そういう地域団体の方々の役員の研修会の場合として、コミュニティ・コーディネーター講座に参加していただくというケースもあります。ですから、その館によってやるものがそれぞれ違ってございまして、その目的も違ってございまして、どういった内容をやるかについても、実際に参加してくれる方々と一緒に考えて、目標を持ってやったりということで、さまざまな形をとってやっているとというのが実際です。

(鶴巻委員)

コーディネーターという言葉は、私たち地域教育コーディネーターと言葉が被っているので、地域の方で少し勘違いをされている方もいらっしゃるかと、あるいは聞かれたりするときもありましたので、今質問をさせていただきました。

そうすると、この講座を受けられた方がその資格を持って個人で活動するというよりも、その講座を受けられた方がその講座の中で学んだことを、例えば西区の寺尾だったら寺尾公園をどうにかしようかというような、大きなテーマを持って皆で活動しているというような認識でいいのでしょうか。

(中央公民館長)

そうですね。まだ講座受講者が独立をしてやっているとよりは、公民館と連携しながらやっていくということで、例えば、坂井輪地区公民館ですと寺尾中央公園の活性化みたいなものについてはフェイスブックなども立ち上げてございまして、その中でこんなことをやっていますよというようなことをPRして、新しい方々を募っているというようなこともやっています。

(鶴巻委員)

ありがとうございました。

(渡邊委員)

非常に各部で積極的にいろいろなことをやられているので頭が下がるのですが、私が進捗状況を見て少しこうしてほしいなと思ったのは、これはおそらく学校とか地域とか、あるいは家庭とか地域生活センターとか、いろいろな場所でやられていると思うのですが、社会教育と言った場合は幅広くいろいろな場所があると思うのですが、地域の教育をもっとやりたいなと思った

第3 2期新潟市社会教育委員会議

ときに、地域でどのくらいやられているのかなというところがこの区分けだと分からないので、できれば、次回からは地元の地域ではこれだけの部分がやられていたというように分かるとうりがあるということ。学校ではこれだけやりましたよと、地域ではこれだけやりましたよというに区分けをお願いしたいと思います。やはり地域が力を持つとか、あるいは連携と言われた場合は、ある意味では地域にもう少し視点を置いたものの見方をしないと、私自身分からないかなと思ったものですから。

(生涯学習センター所長)

私が冒頭の説明で詳しく説明しなかったので申し訳なかったのですが、実は、この区分けは、前回の社会教育委員の建議の区分けなのです。建議の基本施策は具体的施策に沿った形での区分けになっていますので、今、渡邊委員から指摘をいただいた部分での形からすればなかなか分かりにくい部分もあるのですが、あくまでも建議の報告なので構成はこのような形にさせていただいて、そして次回以降は、説明なり個々の個表のところでもう少し分かりやすいように組み立てさせていただくということでご容赦願えませんでしょうか。

(渡邊委員)

ありがとうございます。

(雲尾議長)

そのほかには、いかがでしょうか。

平成27年度実績値があつて平成28年度、先ほども地域教育推進課からお伺いしたところですが、結局、それに比べてどうかという、あくまでも参考なのでいいのはいいのですけれども、例えば平成27年度のこれは、そもそも計画したものに対してどれくらいの実施率だったのかということでない、本当の比較はできないと思います。ですから、今年度はそもそもどう企画しているのか。今現在はこうやっているけれども、最終的にはここまでいくつもりだとかといったようなことでない、どの程度推進されているのかが分からないと言えば分からないところだと思います。

要求すればどんどん表が細くなって、だから渡邊委員の要望も入れると、多分次はこれが横長になって枚数が増えるということになってしまつて大変かとは思つたのですけれども、すべてとまではいなくてもいくつか分かりやすいものはそういった形で説明できる体制を取っていただけるとよいかと思いますので、ご検討ください。

(生涯学習センター所長)

はい。分かりました。

(雲尾議長)

それでは、(2)については終了いたします。

(3) 平成28年度会議日程及び活動スケジュールについて

(雲尾議長)

これにつきまして、資料は3-1ですね。では、これにつきまして説明をお願いいたします。

(生涯学習センター次長補佐)

今後の会議の日程についてご説明いたします。本社会教育委員会議につきましては、前回お示したとおり、日程については変更ございません。未定となっております、表の7番、8番は会場が決まっております。こちらにつきましては、会場が決まり次第、改めてご連絡をさせていただきます。

次に各種研究大会についてですが、表の4番、5番について、県の社会教育研究大会、それから全国大会、ブロック大会については変更ございません。ここに追加してありますものは、3番と9番と10番で、これを改めて説明させていただきます。まず9番と10番につきましては、時期は未定なのですが、年度当初もご案内いたしました教育委員との懇談会、そして教育委員会定例会への活動報告です。これらについては、年度内に実施したいと考えておりますので、決定次第ご案内させていただきます。戻りまして3番です。これは鶴巻委員からご紹介いただきました西川中学校で

第3 2期新潟市社会教育委員会議

の福祉体験学習についてですけれども、本日配布をいたしました案内文書のほうに詳しく書いてありますので、そちらをご覧くださいと思います。内容は、西川中学校で中学校3年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施しまして福祉体験学習を行うというものでございます。西川中学校の講堂を会場に、9月8日の木曜日13時45分から行われるということで、もしご都合がつかましたら是非とも多くの方からご参加いただきたいと考えております。ちなみに、開始の15分前、13時30分にはご参集いただきたいというご案内をさせていただきました。出欠につきましては、8月26日（金）までに事務局までご連絡をいただきたいと思います。裏面には会場案内図を記載をさせてもらいましたが、自家用車でお越しの際には駐車場の利用が可能とのことですので、そちらに停めていただきたいと思います。公共交通機関でJRをお使いの場合には、越後線の駅から徒歩でおよそ20分弱という距離にあります。なお、現地までの交通手段がないという方は、事務局までご相談いただきたいと思います。

次に資料3-2について、ご説明させていただきます。今ほど西川中学校での現地視察のご案内をさせていただきましたけれども、今後の様々な分野の現地調査、視察を重ねてまいりたいと思っております。その調査・研究先としてお示ししたのが、こちらの資料3-2となります。今後の視察先につきましては、この後委員の皆さんからのご意見を頂戴しまして、その後事務局で視察先と調整をさせていただいて、改めてご案内をさせていただこうと思っております。是非とも視察してみたい事業、視察先につきましては、これから皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますし、9月8日の西川中学校の福祉体験学習につきましては、鶴巻委員より是非とも補足説明をいただいて、併せて、皆さんからご意見をいただければと思います。説明は以上です。

(雲尾議長)

ありがとうございました。では、まず9月8日の西川中学校福祉体験学習の視察ですけれども、こちらにご参加いただける方はいらっしゃいますでしょうか。神林委員、小川委員、渡邊委員、お三方ですか。欠席委員には、またご照会いただくということでよろしいですか。ご確認いただくということで、出席委員の中では3名、鶴巻委員は向こうにいらっしゃるわけですね。

(鶴巻委員)

そうですね。お待ちしております。

(生涯学習センター所長)

スケジュールを確認されて行けるようでありましたら、事務局までご連絡いただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

(雲尾議長)

参加者は、レポートの提出と報告をよろしく願いいたします。

(鶴巻委員)

少しだけ補足をさせていただきます。本日お配りしました2枚の、ピンクとこちらの3年生総合的な学習全体計画、5月の時点でしたので（案）になっています。1の学習課題のところ、これはミスプリントです。これは総合の先生に作っていただいたのですけれども、「よりよい生き方」です。「効き方」ではなくて。「よりよい生き方を探る」というところが大きな学習課題になっています。その中で前期が福祉教育で、後期が国際都市論が入っているのですけれども、今回は福祉教育のところを紹介させていただきます。

生徒たちは、5月、6月で福祉とは何だろうとか、あるいは障がい者、あるいは高齢者の疑似体験というところをとおして学んでいきます。そして、7月のマナー講座というのは、9月に福祉施設にボランティア体験に行きますのでそのためのマナー講座です。9月8日に皆さんに来ていただくのが、これが認知症サポーター講座ということで、地域の包括支援センターの方々にはらっしゃっていただきまして、認知症とは何かということで、寸劇を交えたりクイズを交えたりしながらまず講演を聞くのと、その後で生徒たちが実際にグループに分かれたワークショップで、今見た劇やクイズの中からお年寄りとは何だろうとか、認知症とは何だろうということを考えていく講座になります。それを受けて、9月20日と27日には西川地区内の福祉施設に3年生の約100名の生徒が行

第32期新潟市社会教育委員会議

くこととなります。要は、その講演会を聞いて、ただ聞くだけではなくて、それを今度は地域のところに行ってボランティア体験をさせていただいてというところが学びの循環になるのではないかとということで、今回これを紹介させていただきました。

このピンクのコーディネーター通信の裏面なのですけれども、福祉体験学習というところがあります。ここには車いすの使い方とか白杖体験の写真が載っています。3年生の学級委員の子どもたちが西蒲区の社会福祉協議会へ行きまして、その使い方、あるいは体験の方法を事前に学習していき、そして当日はそのクラスの子どもたちに、生徒が生徒に教えるというような形で生徒主導による体験学習というところをここに載せてあります。これは6月の高齢者疑似体験だったり障がい者体験だったりということなのですけれども、一貫して中学生の場合は、講演を聞いてそこで終りということではなくて、できれば学んだことを地域の中にどのように活用していけるかということに視点を置いて活動しておりますので、ぜひ9月8日お待ちしております。ありがとうございました。(雲尾議長)

ありがとうございました。

では、9月8日はそのようなことで締めまして、次に資料3-2の現地視察の候補例につきまして簡単にご説明があったところですが、これにつきましてお気づきの点や質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

(鶴巻委員)

これは、全体的に、例えばここに行きたいと言ったら行けるものなののでしょうか。それとも、皆さんでどこに行きますかと、今検討するものなののでしょうか。

(生涯学習センター所長)

相手方の都合もまだ聞いていませんし、ちょうどいいタイミングでその活動があるかどうかとも分からないので、最終的には、皆さんがどのようなところに行きたいという話をお聞きしつつ可能なところを事務局で日程調整し、例えば、社会教育委員会議の同じ日の会議が終わった後とか、それがかなわないようであれば、段取りがつき次第、別途皆さんにご連絡したいと思います。

ここに書いてあるもの以外でも、例えばこういった事業があるのではないかとか、こういったところに興味があるというようなお話をいただいて、最終的には、相手の都合など日程の関係もあるので、事務局で現地視察の日程を設定させていただこうと思います。

(鶴巻委員)

では、行きたいところを出せばいいということでしょうか。平たく言えば。

(生涯学習センター所長)

こういった方面に興味があるとか、こういったものをぜひ見たいとか、ここでご意見をいただければ日程調整いたします。

(鶴巻委員)

皆さんが興味のあるところ、ここに行きたいということですね。

(雲尾議長)

行きたいところを出してもいいし、聞きたいことを聞いてもいいですね。この中で、行きたいところを言うにも、これが何かよく分からないとかいったようなものとか。

(渡邊委員)

9番でコミュニティ・コーディネーター養成講座とあるのですが、できるだけ地域から大勢の方が参加できるようになればよいと思っています。それぞれから、コミュニティ協議会の代表みたいな感じで二、三人しか行かないと、帰ってきても孤立ではないですけれども、二人だけだと活動しにくいという面もあったりするので、できたら出前形式で、地域でやられるともっと大勢の方が集まって共通認識がもっと強くなるのではないかなと思います。できたらこういうものはコミュニティ協議会の地域センターでやられたほうが私は望ましいのではないかなと思います。

(長浜教育次長)

今のご意見は、会場の設定を公民館に限定するのではなく、広く様々な公共施設等で開催してはど

第3 2期新潟市社会教育委員会議

うかということなのでしょう。

(渡邊委員)

その周辺の地域を含めてということですか。

南区の場合ですと、北部には五つのコミュニティ協議会があるので、それぞれに10人くらいずつ来てもらえば五、六十人集まることになります。その方が、地域の共通認識ができるのではないかと思います。できたら出前形式でやっていただいて、現地で皆さんの問題ですよということを強く認識していただくとありがたいなと、指導していただくとありがたいなと思ったのです。

(中央公民館長)

例えば白根地区公民館ですと、一昨年は白根商店街の活性化ということで、写真を撮りながらそれを公表して商店街の広報をやったというのがあります。去年は、各自治協議会とかコミュニティ協議会とかいろいろな団体の方々のPRの強化ということで、新潟日報の方に来ていただいてチラシの作り方とか機関紙の作り方みたいな研修をやって、大体それぞれ十数人くらい来ていただいてやったのですけれども、そういうものではなくてということですか。

(生涯学習センター所長)

事業のやり方として要望をいただいているということで、今受け止めてよろしいのでしょうか。

(中央公民館長)

白根の場合ですと分館が10館あります。その10館の地域の方々から来てもらって、その地域活性化になる、役に立つような何かを北部地域と南部地域でやるというようなイメージでしょうか。

(渡邊委員)

地域に合致したアプローチをしていただいて、地域の団結を図るという意味で、地域をどのように元気づけるかというようなことでやっていただくと、よりありがたいと思っているわけです。

まちなかでやると、結局まちなか主体となってしまって、他所から参加した人たちは、仮に写真を撮っても、うちの地域の問題ではないなみたいな、そのような感覚があるのではないかなと思っています。

(中央公民館長)

白根地区公民館については、たしか7月と8月でほぼ事業が終ったと記憶しているのです。区と連携して商店街の空き店舗を活用したコミュニティ施設のようなものを有志でつくって、それをどうやって活用していくかみたいなことをやっていたと思うのです。

それから、庄瀬のほうで、古い酒屋さんを使って、やはりそこをコミュニティの場のようなものにできないか、というものを今やっています。詳細はもう少し調べてみます。

(長浜教育次長)

今は、やり方について、一つのご意見・ヒントをいただいたということで、ありがとうございます。渡邊委員は南区の方でいらっしゃるの、逆に南区ではない地域でやっているコミュニティ・コーディネーター講座を参考にしてみたいということであれば、またおっしゃっていただければ、なるほど、この地区ではこんなやり方をしているのかということ、一つの参考にご覧いただけたと思いますので、そういう意味で、今この表を見ていただけたらと思います。

(生涯学習センター所長)

新潟市の施策の具体例を見ていただいて、さらに社会教育委員の皆さんで、例えばここはこうしたほうがいいのかとか、そういった形で、2年かけて建議をまとめていただくので、まずは実態を見ていただいて、それを踏まえて各委員の皆さんで協議をしていただいて、こういうやり方がもっといいのではないのかとか、そういったものを最後にまとめていただくような形で考えていますので、そのようなことをご理解いただければと思います。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

(横坂委員)

先ほどお話ししました子ども食堂の件ですけれども、その現場に行って、どのような経緯でこうい

第3期新潟市社会教育委員会議

うことが始められたのか現場の声をお聞きしたいです。今、私が知っているだけで3か所あります。
(小川委員)

そんなにありますか。

(横坂委員)

新潟で最初に始められた方は、かつて公民館の講座で学び、企画委員もされて、社会活動にその場を広がっていかれています。「学びの循環」ということからその経緯を知りたいと思います。

(雲尾議長)

候補として、ありがとうございます。そのほか、ご質問、ご意見はいかがでしょうか。

(小川委員)

今、横坂委員から子ども食堂とおっしゃいましたが、私もぜひ見に行きたいという気持ちはあるのです。もう少し実務的に考えると、先ほど井関所長から建議という形で最終的にまとめるのですよというお話がありましたが、そうすると、この「学びの循環による人づくり」ということを進めるために、視察をしてこういう報告書を作りますということを前提に考えると、これは所管課ごとに並んでいる部分はあるのですけれども、やはりいろいろな領域のものをある程度視察なり、見学なり、ヒアリングなりをさせていただいたほうが、まとめるに当たってはよろしいのかなと、これを見ながら思っていたのです。その中で、例えばこういうところがいいとか、これはぜひ行きたいとかということを出していただくと、そしてなるべくバランスをとった形で、あとは事務局にお願いという形になればいいのかなと思います。

(鶴巻委員)

資料1の◆「学びの循環」の例のところの上のポチ、「西川地区公民館での事例（ゆりかご学級終わって、実行委員として講座を企画）」というこの一文がありますけれども、これが資料3-2にくとどこに入るのでしょうか。10番か11番でしょうか。分かりますか。

(雲尾議長)

10番、11番がそうですね。企画委員という形で講座ごとにやる場合と、公民館の活動全体とおした協力員として任命されている場合などがありますので、どちらかと言うと10番かもしれないですね。

(鶴巻委員)

10番でしょうか。

(雲尾議長)

そういったようなところも、ぜひ行きたいということですね。西川に限らず、ほかのところでも同様にされていますので。それこそ、タイミングもありますので、視察の時期と。

(鶴巻委員)

そうですね。

(長浜教育次長)

たしかに、今10番と言われても、どんな企画に携わっているのかということが分かりづらいでしょうか。

(鶴巻委員)

そうですね。少し大きいですよ、この10番は。

(雲尾議長)

全部ひっくるめていますからね。

(生涯学習センター所長)

これは、中央公民館もありますし、個別具体的に列挙することも念頭にはあったのですが、各館でけっこう取り組んでいるものですから、そうするとものすごく膨大となってしまいます。例えば、家庭教育学級を卒業した人たちが、次の家庭教育学級の企画に携わるのかということなので非常に幅広くなり、このような形での記載となりました。

(鶴巻委員)

第3期新潟市社会教育委員会議

公民館活動協力員は前からありましたけれども、公民館活動協力員と公民館の講座の企画委員との違いはわかりますか。

(中央公民館長)

活動協力員は、公民館から委嘱をして、若干なのですけれども年間報酬をお支払いして、いろいろな活動のときに協力してもらっています。企画委員というのは、例えば若い人たちを集めるユースセミナーをやって、その若い人たちが、今度は次の、自分たちよりももう少し若い人たちを対象に、今年のユースセミナーはこのようにしたらどうなのですかというような意見を求めて、こういう事業を去年やったけれども、去年やったのはよくなかったとかよかったといった意見を求めて、そして実際にやるときに参加してもらって協力してもらいたいな、そういう形です。

(鶴巻委員)

では、自主的な参加ということですね。

(中央公民館長)

そうですね。

(鶴巻委員)

そして、活動協力員のほうは、委嘱されますよね。

(中央公民館長)

そうです。

(鶴巻委員)

分かりました。

(雲尾議長)

そのほかにいかがでしょうか。

今のは、ここには広く出ていますので、例えば公民館活動協力員の中でもやっていることはかなり千差万別ありますし、先ほどのコミュニティ・コーディネーター養成講座でも各区によって相当違いますので、その辺のバランスを見ながら調整させていただいてということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。それでは、別途ご案内させていただきます。

(4) 第58回全国社会教育研究大会・第47回関東甲信越静社会教育研究大会への参加について

(雲尾議長)

これにつきまして、説明をお願いいたします。

(生涯学習センター主事)

事前にお配りしました冊子に基づきまして説明させていただきます。10月26日から3日間にわたって開催されます全国社会教育研究大会と関東甲信越に静岡を加えた関東甲信越静岡ブロックの社会教育研究大会の案内になります。今年は千葉県で開催されまして、26日から開催されるわけですが、26日は理事会と事務局会議となりますので、実際にご参加いただく場合には、27日から2日間の日程となります。その他の詳細につきましては、冊子のほうをご覧くださいと思いますが、ご参加いただける方がいらっしゃいましたら、2名程度選出いただければと思います。また、本日お配りしましたこちらのA3の資料になりますが、こちらは第16回新潟県社会教育研究大会田上大会の案内になります。こちらのほうもご参加いただける方がいらっしゃいましたら、2名程度選出をお願いいたします。以上です。

(雲尾議長)

それでは、まず、全国社会教育研究大会千葉大会につきまして、参加していただける方の選出をいたします。いかがでしょうか。10月27、28日ですね。大会行事が13時、アトラクションもありますので、ご覧ください。アトラクションは大体地元の芸能であったり、さまざまですので。朝出ても、27日と28日の分科会終了後という形になりますか。28日の分科会までという形でご参加いただくこととなりますが、いかがでしょうか。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

特に参加可能という方はここにはいらっしやらないということですか。そうしますと、あとのお三方に聞いてみるということになりますか。

(生涯学習センター所長)

できましたら、大会が10月ですので、次の社会教育委員会議が11月なので、どなたかに手を挙げていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

(渡邊委員)

10月21日。はい。では、私に参加させてください。

(生涯学習センター所長)

ありがとうございます。

(雲尾議長)

千葉のほうですね。今回、全国大会も兼ねていますので、いかがでしょうかということなのですが、ちなみに次のローテーションでいうと、全国大会は新潟にくるのですが、それは何年か先の話ですので、そのころに社会教育委員をしているか定かではないというところもありますけれども。それは新潟県が主管ですので、新潟市は協力くらいだと思いますが。

(鶴巻委員)

すみません。私も27日は行けないので、21日だったら参加できます。すみません。

(生涯学習センター所長)

ありがとうございます。

(雲尾議長)

せっかくの全国大会が近くであるということではあるのですが。

(生涯学習センター所長)

お一人だけでも、誰か手を挙げていただけると。

やむを得なければ、どちらか1日だけ日帰りという手もありますけれども。いかがでしょうか。やはり、お一人は出ていただいたほうが。

(雲尾議長)

ご欠席の3人の委員にお願いするしかないでしょうか。

(生涯学習センター所長)

ご予定をあたってみます。

3人の委員から手を挙げる方がいらっしやったら、その方ということでもよろしいでしょうか。

(雲尾議長)

はい。よろしく申し上げます。

(生涯学習センター所長)

ありがとうございました。

(雲尾議長)

では、全国大会のほうはそういった形で、後で確認していただくということになります。それから田上町の社会教育研究大会については、渡邊委員と鶴巻委員のお二人でよろしいですか。では、お二人に参加していただきますので、これにつきましても参加後にレポートの提出と報告をお願いいたします。

3. 報告事項

(1) 社会教育委員等研修会(6/27)参加報告

(雲尾議長)

では、報告ですが、6月27日に開催されました社会教育委員等研修会に4名の方が出席されましたので、報告をお願いしたいと思います。伊井委員は欠席のため、報告書をもって報告に代えることといたしたいと思います。では、田村委員より報告をお願いします。

(田村委員)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

では、6月27日の社会教育委員研修会に参加してという資料をお出しいただきたいと思います。私は、この日は午後から特別支援教育の研修会があった都合で、午前中のみ参加でありました。長岡市中央公民館に行かせていただきました。「はじめに」の前半は、私が迷子になってしまった話を書いただけです。かつて長岡市に勤務していたのですけれども、旧市役所がアオーレ駅前に移って、10年前の感覚でこの辺だなと思って行ったら迷子になってしまったという話からです。そこは、省略させていただきます。

研修会の参加者は、全体で大体90名程度でありました。半数近くが社会教育委員となってから3年以内の方でありました。私は、午前中の講義のみ参加させていただきました。講師の方からは、社会教育委員の役割について、法令的な点から、またその法令ができた背景などについてご講義いただきました。講師は、前阿賀野市生涯学習課長の見原様からご講演をいただきました。テーマは「迷ったら原点に戻る！社会教育委員の役割について」ということでありました。主に二つのことからお話しされたのではないかと思いますけれども、一つ目が社会教育委員の心得について、二つ目が法令と社会教育を取り巻く動向からと、この二つの観点からお話しされました。

一つ目、社会教育委員の心得についてということで、社会教育委員の心得7箇条ということからまずご指導いただきました。例えば一つ目、地域の実情に詳しくなりましょう。二つ目、地域の施設や社会教育事業を見て、住民の声に耳を傾けましょう、など、7箇条あるわけなのですが、これらについてお話をさせていただきました。地域づくり、まちづくりの活動に参加する中、地域の課題と向き合い、行政の担当との意思の疎通を図ることの大切さについて、7箇条ということでご説明をいただきました。

二つ目です。法令と社会教育を取り巻く動向からというところから話をされました。まず、三つ目の丸のところの社会の変化の中、「人は一生学び続けなければならなくなった」と生涯学習の考えが提唱されて、そして一つ目の丸のところにあります平成18年に教育基本法が改正されたわけなのですが、その中に「生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことができる社会の実現を図らなければならない」という項目が新設されました。その辺りの背景についてご説明をいただきました。

私がすごく印象に残っているのは、最後の丸のところです。公民館の建設の必要性について、元文部省公民教育課長の著作を基に講師の方からご説明をいただき、戦前の反省や戦後の荒廃から立ち直ることを目指す決意のもと、平和と民主主義の理念を身につける施設、文化の薫り高い人格を磨き合う施設、地域の生活を豊かにする施設ということから、公民館の建設の必要性についてお話しいただきました。

最後、研修会に参加して、私の学んだことであります。私自身、社会教育委員となって1年目であります。まだまだこの社会教育委員の役割等について、よく分からない点がたくさんあります。約90分間の研修の中に、単に法令などの根拠をもとに社会教育委員の役割についてご講義いただいただけではなくて、法令の改正といった背景、背景があって法令が改正されているわけなのですが、そういった社会の変化や動向という視点からご講義いただいたことは、私にとって学ぶことがたくさんありました。

近年、社会の変化の中、私も学校教育に従事する者です。地域と協働した活動の大切さということがよく言われております。先日、中学校の校長会があった中で、こういう話があったのです。今、中学校で行われている地域と一緒に活動というのは、どちらかと言うと学校からのニーズ、そして地域からのニーズに基づいた活動が行われている。それは、地域からの方向性、学校からの方向性、双方向で行われている。そうではなくて協働という言葉が大事なのだという話が、この前中学校の校長会の中でありました。やはり学校と地域というところから協働ということを考えていくと、学校の子どもたちと地域住民が一緒になって、この地域をどうやっていったらいいか、地域の課題は何で、それをどうやっていったらいいか考えて活動を進めていくことが協働なのだという話がありました。今、そういうことが一番大事なのかなと。そういった活動をとおして、学校の視点から言うと子どもたちが育っていく、子どもたちの自己有用感が高まっていく。そして、地域の

第32期新潟市社会教育委員会議

子どもたちの愛着を高めることができるのかなと思いました。そして、私自身、自ら地域の活動等に参加して、地域の課題と向き合うようにしていかなければならないということを感じてまいりました。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

南雲委員も欠席でございますので、横坂委員にご報告いただいてから、併せてご質問を受けたいと思います。

(横坂委員)

講義の内容については全部おっしゃっていただきましたので、私はワークショップの部分で、本当にいろいろな地域で実際に活動されている社会教育委員の方の生の声を聞いたのがとてもよかったです。認知度が低いということはどうなのと言われていまして、それから、社会教育委員は個々でいろいろな思いを持って動けるものだというところを、活動している人たちから聞いたということも収穫でした。ですから、全体としてもそうですけれども、一市民としてここで生きていて、何を考えて、また周りの人たちがどう見ているかということをととても大事に持って会議に参加して、そして何かを実現していくということなのかなと思ったのです。すべてではないですけれども、会議に出ることだけではなくて、その前に自分がどう生活してどう感じて周りを見て、そしてここに来るかということが大きいのだなということ、皆さんから知らせていただいたということは大きな収穫でした。

(雲尾議長)

ありがとうございました。それでは、お二人の社会教育委員等研修会のご報告につきまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

ありがとうございました。では、報告事項まで終了いたしました。委員の皆様から何かご意見等がございますでしょうか。よろしいですか。

では、議事を終了いたしましたので、事務局をお願いいたします。

4. 閉会

(事務局)

長時間のご審議、どうもありがとうございました。最後に2点ご案内して終了したいと思います。

まず1点目は、本日配布させていただきましたこちらのカラーのチラシなのですが、現在にいがた市民大学で開講しております「言葉の力、語りの力」という講座の公開講座のご案内になります。こちらは、社会教育の現場ということで、社会教育委員の皆様ぜひご覧いただきたいと思っております。日時は、平成28年9月2日の金曜日となっております。会場は新潟市民プラザ、クロスパル新潟ではなくて新潟市民プラザを会場として、講座受講生と一般の市民の方を対象に開催するものとなっております。ご覧になりたい方、お申込先なのですが、チラシの表に書いてあるコールセンターではなくて、生涯学習センターまで、前日でもけっこうですし当日でもけっこうです。ご連絡いただければ、また、連絡できないのだけれども急に行けることになったということであれば、会場に直接お越しいただければけっこうです。以上、1点目が、にいがた市民大学公開講座のご案内になります。

2点目は、全国社会教育委員連合より届きました「ニュースレター」、「趣意書」、「ご協力のお願い」を、本日社会教育委員に配布させていただきました。前回の社会教育委員会議でお話しさせていただきましたとおり寄付の依頼がありますが、こちらはあくまでも任意ということですので、よろしくをお願いいたします。以上、2点ご報告させていただきました。

以上をもちまして、第32期社会教育委員会議第2回を終了いたします。次回は、11月7日月曜日、午後2時から、会場は別途ご案内させていただきます。ありがとうございました。